

# なにわ たいむず

No.117

## contents

- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマバナシ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 ドラマエダ / アトリコエナニク
- 04 Case Book
- 06 ジムインこいけのなんでも日記  
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

# “暑気払い”をしました！

今年の夏も暑かったです…。ライフサポート  
なにわとサテライトでは、暑さも楽しもうと  
8月半ばに暑気払いを行いました。

ライフサポートなにわでは、かき氷とスイカ  
を楽しみました。スイカは皮をとらずにお渡  
しし、季節の食べ物を楽しんで頂きました。

サテライトでは、焼きそばやタコ焼きをスタ  
ッフが用意し、利用者さんたちは食券を握り  
しめて、食べたいものをリクエストされていま  
した。午後からは射的やおかし釣りなどの出  
し物が催されました。

そして、8月の終わりには、なにわの夏の風  
物詩となっている花火大会を行いました。利  
用者さんたちにとって、夏の楽しい思い出に  
なったのではないかと思います。  
(小池)



## NEWS

### 「子育て支援講座」を 実施しました！

9月5日(金)、アゼリア柏原にて、  
角田みずさんを講師にお迎えし「子  
育て支援講座」を開催しました。当  
日、台風が関西を直撃する予報となっ  
ており、どうなることか…と思われま  
したが、15名(内部を合わせると28  
名)の方々にご参加頂き、無事開催す  
ることができました。

コロナ禍のZoomでの開催を挟み、1  
0年以上毎年お話し頂いています。複数  
回ご参加頂いている方々からは「1年に  
一度、角田さんのお話を伺いながら、  
自分を振り返る機会になっています」  
というお声を頂きます。自閉症の方と  
のかかり方ということだけでなく、人  
と人とのつながり、自分自身との向き  
合い方を振り返る場になっている、と私  
自身参加していて感じます。  
ご参加頂きました皆様、この場をお  
借りしまして、御礼申し上げます。あ  
りがとうございました。  
(小池)

## 管理者もするしまの

### 自己決定って…何？

暑い夏が過ぎ、ようやく過こしやすい季節になりました。町のあちこちでだ  
んじりの笛や太鼓の音色が聞こえるようになり、食卓にも梨や柿などの果物  
が出るようになりました。秋の訪れはどこか懐かしく、切なさをまもっているよ  
うに感じます。

一方世間では、トランプ関税から石破首相の退任、高市新総裁の誕生など、  
政治が怒涛のように流れ、時代が変化しているのが肌感覚として伝わってきま  
す。障害福祉の分野でも、令和9年度の報酬改定に向けた議論が進んでいま  
す。今後の入所施設の在り方についても検討会で議論されており、先日まとめ  
が公表されました。その中では、更なる地域移行を進めていくために入所施  
設に求められる役割・機能、あるべき姿が次の4つにまとめられました。①利  
用者の意思・希望の尊重…どこで誰と、どのように生活したいかなどの意思決  
定支援を推進 ②地域移行を支援する機能…施設から地域生活への移行を  
支援する。グループホーム体験をして、本人の意思確認をするなど ③地域  
生活を支えるセーフティネット機能…要は緊急時の短期入所の受入れ ④入  
所者への専門的支援や生活環境…強度行動障害や医ケアなどの専門的支援  
としての役割や、個室化などの住環境の整備です。①と②は、大きくは本人  
の自己決定に関するものですが、定義の難しい“自己決定”について正面から向  
き合わなければならない時代になったと感じます。ある大学の先生は「自己  
決定が人に存在するものとして扱われている」とおっしゃっていました。また別  
の方は「自己決定は育てるもの」とおっしゃっていました。そういった議論を抜き  
に、本人がそのとき選んだものが本当の自己決定と判断するのは乱暴に感じ  
ますが、かといってこのままでもいいとも思えず…。悩ましいなあ…。

先日、他事業の方が施設見学に来て、「職員さんが笑顔であいさつするなど、  
自分たちがこうなりたいと思っていただけですべてしておられました」とコメントを  
いただきました。嬉しかったので、最後に自慢させていただきます！



## 6年ぶりの海水浴

今年は6年ぶりに親子3人で海水浴に出かけました♪

幼い頃から水遊びが大好きだった息子。

海の中では浮き輪でプカプカ浮きながら、お父さんと水のかけあいをしたりして楽しんでいました。

お父さん曰く、「水の中だと対等だと思ってる」とのこと(笑)  
家族で久しぶりの海水浴を楽しむことができて嬉しかったです(^-^)

コロナや台風の影響で中々行けず、今年の8月にやっと連れて行くことができました。私も夏バテ対策で、しっかり三食とることを意識し、バテないように気を付けていました！ところがお出かけ後、息子のほうが体調を崩してしまいました(笑)

久しぶりの海ではしゃぎすぎてしまったかな？！

それもいい思い出です。

By キャンディちゃん

### 担当者コメント欄

今回は、かる～いゆる～いテーマのつもりでしたが、お二方も素晴らしいエピソードをお話してくださり、スキップどころか踊りだしたくなる気持ちになりました♪  
お話を聞かせていただきありがとうございますございました(\*^^\*)

(忍穂・梅林)

## 今回のテーマ

最近  
心がスキップした  
出来事♪



お母さんが日々感じていることを  
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

## 家族でカードゲーム

7歳のお誕生日プレゼントは放デイで遊んでいるカードゲーム(『レシピ』)がほしいと言った息子。

初めて家族でゲームをする時、息子に「ルール教えて」とお任せしてみると、伝わり切らないところもありながらも、一生懸命に順番や勝ち方などを整理しながらしっかりとルールを教えてくれたことにびっくり！！

これまでは息子に教える立場だった私が、今回は全てを息子に教わる経験をして、改めて息子の成長を感じました。

ゲーム中にも、駆け引きを試みたり、相手の様子を観察したり、「そんなこともできるようになったんだな…」と、日々家族以外の関係の中で色々なことを学んできていることが、このカードゲームを通じて体感することができた嬉しい時間でした♪

by ママにこ



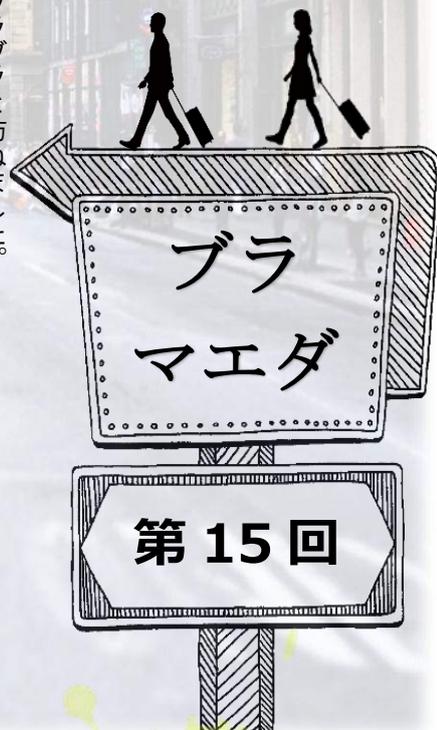


## 理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



(株)Rodina 私費事業部長

古賀 信彦さん



今回は「株Rodina」の古賀信彦さんをブラブラと訪ねました。

マエダ「毎年恒例となりました交流ありがとうございました。現在はリワーク（休職者の職場復帰支援）業界のトップランナーとして活躍されていますが、状況は如何ですか？」

古賀さん「こちらこそ、長年の交流ありがとうございました。おかげさまで、ここ数年で、全国五〇拠点にまで事業を拡げることができました。競合の参入も激化してきましたが、まだまだ社会的なニーズがあるので、当面は全国を駆け回る状況が続きます。」

マエダ「医療法人、社会福祉法人、障害福祉業界最大手企業、現在のお仕事と、キャリアを積み重ねてきたお立場から、今後の社会福祉法人の役割を、どう感じておられるでしょうか？」

古賀さん「やはり、地域になくてはならない、最後のセーフティネット的な役割を担う必要があると思います。これからの難しい時代の中で、地域のあらゆる人々の『居場所』を死守していく必要があるのではないのでしょうか？」

マエダ「より具体的には、どのような取り組みが必要だと思われませんか？」

古賀さん「なにわの里さんが、長年取り組んできた行動障害がある方への支援や、地域に根差した、児童期からの丁寧な個別の支援も、その一つだと思います。あと、一人ひとりのスタッフが、やりがいのある活動を実践すると同時に、自身のキャリアをイメージできる環境が必要だと思います。規模に課題があれば法人間で連携をすることも一つの手段かと思えます。」

今回も、超々コンパクトにまとめています。古賀さんのクールな一面は、支援を継続し、『居場所』を死守するための熱い想いが根底にあると感じるお話でした。ありがとうございました。

## アトリエヤニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

### 【ツールの説明】

転記を見て、その日の歩行活動の有無を確認し、スケジュールを選択する工夫。

### 【ツールのメリット】

歩行活動の有無を自分で確認することで、先の見通しを持ちやすくなり、大きく調子を崩すことが少なくなった。





# Case book

なにわの里 支援の実践紹介



「家事活動」に取り組む機会を創出した  
取り組みについて

入所支援 1 係 橋本、尾上、永田



## 【はじめに】

利用者さんの生活全般をサポートしている入所支援 1 係の会議中、とある問題が議題として挙がりました。「生活全般をサポートするために集まった部署なのに、家事活動を教える機会が少なすぎるのではないか？」たしかに「生活全般のサポート」という多岐にわたる業務に追われ、「家事活動の技能習得に向けたサポート」といった視点を十分に持てていなかった反省がありました。

「多岐にわたる業務に追われる」というチームが抱える現状を一朝一夕で解決させることは難しいですが、そういった状況の中だとしても「我々にできること」を考える必要があります。その点を検討した結果、『家事活動を教える・練習するための時間帯を設け、その枠内で実施できそうな支援プログラムを募る』といった取り組みをチームで進めることにしました。

繰り返しになりますが、多岐にわたる業務に追われる現場状況の中なので、取り組みの時間や頻度は非常に限られています。が、そんな中でも少しずつ進みだしているいくつかのケースを今回はご紹介したいと思います。(橋本)

## 【家事活動の紹介】

### 1) シンク掃除

	A さん	スタッフ
①		シンクにジフをかける。
②	手袋を装着し、スポンジでシンクを洗う。	※洗い残しがあつた場合、声掛け。
③		水を出す。
④	ホースを持ち、泡を流していく。 	
⑤		感謝を伝える。

掃除の手順もすぐに覚え、丁寧に作業をしてくれています。これらを A さんの長所と捉え、今後も本人の良さを伸ばせる活動を模索していきたいです。(橋本)

## 2) ゴミ捨て

	Bさん	スタッフ
①		事前にゴミを集めておく。 Bさんにゴミ捨てのお願い（声掛け）
②	ゴミをカートに入れ、屋外にあるゴミステーションまでカートを押し、ゴミ捨てに行く。 	見守り。
③	カートを押し、リビングへ帰る。	見守り。
④		「ゴミ出しありがとう!」感謝を伝える。

「ゴミ捨てお願いしていいですか?」と伝えると、ニコニコしながら意欲的に取り組む様子が見られます。現時点ではスタッフが行っている工程①「事前にゴミを集める」も、今後はBさん自身が行う工程として、取り組めるようにしていきたいと考えています。(尾上)

## 3) 掃き掃除

	Cさん	スタッフ
①		掃除エリアに濡らした新聞紙を撒く。 
②		ほうきとちり取りを手渡す。
③	新聞紙をかき集める。 	
④		感謝を伝える。

初めはほうきを使わずに手でちり取りに入れるため、手を持ちながらほうきの使い方を教えました。また、初めは10枚の新聞紙を使っていましたが、量が多いのか全ての新聞紙を見つけられませんでした。そのため、5枚に減らし、より成功経験を積みやすく工夫しました。すると、ちり取りで自立して掃き集めることができました。時間が空くと、作業内容を忘れてしまうこともありますが、コツコツと練習を重ねています。(永田)

### 【おわりに】

以上、「多岐にわたる業務に追われる」といった多忙な現場状況の中でも、家事活動に取り組む機会を作ることができた数ケースを紹介させていただきました。

本来であれば、日常の生活を送る中で、ごく自然な形で家事活動に取り組む機会を作っていくのが理想であると思います。しかし、そういった理想だけに目を向けるのではなく、多忙な現場状況とのバランスをとったことで「個別支援プログラムを活性化させることができた!!」といった手応えを感じており、そういった意味でも意義深い取り組みになったと考えています。(橋本)

## ジムインこいけのなんでも日記

### 「大切なあなた」として接する

私事になるのですが、少し前から体調が思わしくなく、地元にある心療内科に通うことになりました。子どもの頃から心療内科には通ってきたのですが、やはり最初は「どんな先生だろうか」と不安になります。予約時間の少し前に病院に着き、待合室でそわそわしながら待っていました。

「〇〇さん」と先生が部屋から顔を出して、患者さんと呼ばれます。ずいぶん親しみを込めて名前を呼ぶのだな、長い間通っている患者さんなのかな…などと思っていたのですが、次に呼ばれる方も、その次の方の名前も、同じようなトーンでした。そして、初診である僕の番が来ました。「小池さーん」とやはり同じように呼んで下さいます。初診であるのに、「患者さん」としてではなく「小池さん」として接して頂けたように思えて、気持ちがとても和らぎました。

別の日。ライフサポートなわ(入所施設)のリビングを歩いていると、「なんや、小池くんか」と利用者Iさんが声をかけて下さいました。Iさんは、僕が新人の頃から名前を憶えて下さって、お会いすると「あ、小池くんか」と呼んで下さいます。僕の気持ちが弱っていたからか、余計に名前を呼んで頂けたことが嬉しく、ほっとするような気持ちになりました。僕がしゃがんで背中を見せると、「おんぶ」の体勢になって体を預けて下さる利用者さんもおられました。そんなふうに「スタッフさん」ではなく、「小池くん」として接してもらえらることで、利用者さんに気持ちを和やかにしてもらっていたんだな、と感じます。

「大勢の中の誰か」ではなく、「大切なあなた」として接することが、その人のケアにつながる。別にこれは「先生・患者さん」「利用者さん・支援員」の関係に限らないことだとは思いますが、特に気持ちの弱っているときや弱い立場に置かれている人には大切なことのように感じます。自分がして頂いたことを、周りの助けて下さる方々にも返していけたら、と改めて思いました。

### なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2025年5月1日～9月30日

(敬称略・順不同)

#### (法人の部)

株式会社加美塗装工業所 岩崎商店 アトリエらくだ 工和工業株式会社 特定非営利活動法人けいき

#### (個人の部)

小島 純子 森 克雄 山下 孝子 坪田 世津子 下郷 園子 塩路 陽香 神田 佳子 松尾 保隆  
井上 政二 廣橋 庄子 四方 世津子 前川 阿紀子 松田 紀弘 松田 ちか子 松井 基安  
白根 英樹 延田 京子 白根 勝雄 片岡 泰彦 井形 正信 久保 信代 藤原 昌 安井 喜誉嗣  
中谷 孝 宮崎 京子 佐々木 久子 田中 仁紀子 戸田 和歌 渡邊 和恵 合田 裕章 松田 恭一  
町野 隆 小野 雅司 武政 英雄 川島 伸也 村松 克己 光田 一二三 濱田 由紀子 北浦 知左  
端谷 克彦 井田 博 川原 光司 車谷 二三夫 森 陽介 松村 浩昌 森 洋子 湯浅 珠樹  
湯浅 美奈子

# STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— Fさんがなにわの里に出会ったきっかけを教えてください！

「こんな理由で障害者福祉の道に・・・」といったことはなくて、「自分にできる仕事がかねかたと思った」というのが、この仕事を始めた理由です。そんな中で、福祉関係の人材紹介所に行って最初に目に入ったのが、なにわの里の求人でした。自宅からの距離などで、他にそれほど選択肢もなく・・・といった感じだったのですが、ひとつ思い出したのは、「なにわ」という文字を見て、「なにわ=大阪、けっこう都会にある施設なのかも」と思ったんです。実際行ってみると、すごい田舎だったんですが。

— Fさんが入職されたのが22年前の2003年10月、新人時代の思い出などあれば、教えてください！

パッと思い出したのは、採用実習で先輩スタッフと利用者さんとでドライブに出かけた時のことです。その利用者さんは、運転している先輩スタッフを頼りにしていて、後部座席からそのスタッフの姿が見えなくなると、不安になるのか調子を崩してしまって、隣に座っていた自分の腕を何度かかむ・・・ということがありました。

— 採用実習の日に何度か腕をかまれて、「この先続けられるかな」とか不安にはならなかったですか？

まあ、そんなもんなのかな、と思ったんでしょうね。他に比較できるものもないですしね。

— 入職されてから今までで、一番うれしかったことはどんなことでしょうか？

具体的なエピソードではないですが、この仕事をしていると、「利用者さんにこんなふうにしてあげたいと思うけど、どうしたらいいのかわからない」といったことはよくあると思うんです。後輩スタッフがそんな状態に陥っているときに、自分とのやりとりの中で「こうすればやれるかな」と感じてくれる、そんな場面が嬉しいですね。

— Fさんが入職されて22年の中で、なにわの里が「いいふうに変わったと思うところ」、反対に「変わらずにあるいいところ」を教えてください！

昔は何かをすり減らしながら仕事をしていた・・・というところはあったと思うんです。自分自身、それをよしとして仕事をしてたんだと思うのですが、自分に対してそうしていたということは、周りに対してもそれを求めていたということだと思います。これはなにわの里が・・・というよりも、自分自身の価値観の話かもしれませんが、そういった価値観は、少しずつなくなっているのかなと思います。

変わらずあるいいところは、いつも利用者さんのほうを向いて考えるところかと思っています。課題はあるかもしれないですが、そうありたいと思っているところは、今も昔も変わらないなにわのいいところだと自分は思います。



F・Y  
(入所支援1係 係長)

第117号

2025年10月10日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail [naniwa@naniwanosato.jp](mailto:naniwa@naniwanosato.jp)

HP <http://naniwanosato.jp>

